

## 「人材発掘・育成支援事業の取り組み」 ～団塊世代の地域コミュニティへの参加を促す～

福岡市別府公民館 館長 小森 貴一郎

①事業名 「別府公民館50周年記念誌発行事業」

②事業の目的

「広く地域の人たちが作成に携わることで人の輪ができ、特に団塊世代の生きがいづくり、あるいは地域活動への参加につなげる」ことをねらいとしました。

新しい人材を掘り起して、活動の場を設けることで校区の歴史を伝える語り部の育成や公民館活動をさらに活性化させたり、地域コミュニティ活動を促すことができるのではないかと考えました。

③事業の実施主体 福岡市別府公民館

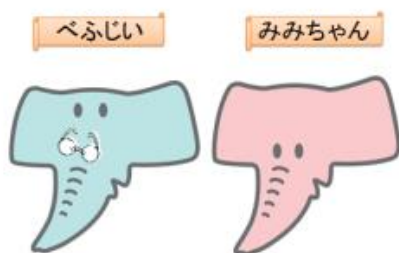
④連携・協力機関・団体等 別府校区自治協議会・福岡大学地域共生研究所

⑤事業予算 約70万円（公民館・別府校区自治協議会負担）

⑥実施に至る経緯

別府公民館が所在する別府校区は、地下鉄七隈線が中心を貫いて走っており、国道202号線・城南学園通りなどの道路網と合わせて交通至便の地域です。

25年6月に発足した人尊協のシンボルキャラクター



校区の輪郭が象の顔に似ていることからできたのが、平成25年6月に発足した別府校区人権尊重推進協議会のマスコット、愛称「べふじい」と「みみちゃん」です。今後の人尊協活動のシンボルとして支えてもらうことになっています。

別府校区の面積は城南区11校区の中では3番目の狭さですが、人口は16,000人を超え、最も多い校区となっています。

このことは地下鉄七隈線の開通による住環境の変化もあって、マンション建設が進み人口流入が続いていることが影響していると思われます。

平成25年9月現在の人口は16,013人を数え、世帯数7,929世帯にのびります。特筆すべきは30代から40代の子育て世代の流入が顕著で、別府小学校の児童数も急増しています。

その波及するところは、自治協議会活動への子育て世代の参加が目立ち、おやじの会をはじめ活発な活動がなされています。反面、現役を退いたいわゆる団塊世代の地域活動への参加者が少ないことは気になるところです。

今年7月に、別府公民館は設立50年という節目を迎えますが、記念事業の一環として記念誌の発行を企画しました。

## ⑦プログラム作成の視点

従来の記念誌は個人の古代史研究の成果発表であったり、公民館職員だけが関わった作成であったりと個人に託すところが大きかったと思います。

今回の記念誌はそうではなく、たくさんの方が作成にかかわるものにしようという思いで、平成23年度から取り組みを開始しました。

## ⑧事業の内容

福岡大学地域共生研究所の協力も得られることとなりました。福岡大学の地域共生研究所は「国家」に代わる新しい枠組みとして「地域」を捉えなおそうという研究活動をされていて、地域活動で活躍できる人材の育成に取り組んでおられます。

記念誌作成への取り組み内容は、写真での取材に必要なカメラ撮影の講習会。

校区に昭和34年まで存在した福豊炭坑については、福岡大学の永江教授の調査に基づいてその規模や採掘方法、当時の周辺地域の様子を伺いました。

### 樋井川の今昔



### 別府の記憶ワークショップ



また、樋井川の話では郷土史の研究者から、川がもたらしたプラス面とマイナス面での住民の生活環境の変化を教わりました。

さらに、校区の戦争体験者が福岡空襲あるいは戦後の米国駐留軍のことなどを中学生に話してもらう機会を設けたり、別府の地に長く住んでいる方々に参加してもらってワークショップを行い生活に密着した昔の記憶を集めました。

### ア 人材発掘のための取り組みの内容

具体的な行動は、きっちりした組織としての記念誌作成委員会を立ち上げるために、いよいよ人材探しに本腰を入れることにしました。

公民館事業や地域活動にかかわることが少ない人でも、少しでも手がかりがあればアプローチをはかりましたが、その結果、記念誌作成に関係するであろう職歴を持つ人に参加してもらうことに成功しました。

具体的にはITのエンジニアOBであり、全国紙の新聞記者OBのMさんです。ITのエンジニアOBには、記念誌作成に活用できるシステムの開発をしてもらい、メンバー間での連絡事項や会議録の配信が可能になりました。

また、過去の記念誌を参考とするために内容をスキャナで読み取りデータベース化し、項目別に整理することで重複掲載が明らかになるとともに、必要な記事をピックアップできるようになりました。さらに進めてホームページでの公開の際にはその土台とすることができるのではないかと考えています。ちなみにMさんは公民館子ども

の健全育成関連事業で、囲碁将棋の先生募集を行った際に参加してもらったのがきっかけで声掛けをしました。

新聞記者OBのOさんには、取材のやり方、文章の書き方、編集のやり方など、指導をしてもらっており作成委員会の中でも存在感があります。Oさんは町内のかわら版作成に携わっておられることを耳にして声掛けをしました。

さらには、作成委員会をスタートさせ活動が見え始めたところで、記念誌の作成に興味を示したメンバーが複数名加わり顔ぶれも賑やかになりました。

## イ 記念誌作成のための活動の内容

記念誌の内容を検討する中で、編集の方向性も定まりました。

別府の歴史をメインにして、公民館50年史、自治協議会の10年史の3部構成とすることにしました。

メインである別府の歴史はその内容のボリュームを考慮して、古代歴史班と近代班の2つの部会で作業を行い、全体会でトータル的なまとめをすることにしました。

まずは古き頃を知る人に集ってもらい歴史を語ってもらう会の開催や、神社や高齢者の方の自宅を訪問して聞き取り調査を行うなど、地域の人を巻き込むことによって、協力をしてくれる人が少しずつ増え記念誌事業への関心が深まっています。

また、メンバーが大いに興味を持ちましたが、福岡大学のゼミへ参加して考古学の視点からも歴史の掘り下げを行っています。

福岡大学桃崎ゼミの講義に参加  
半世紀ぶりの大学授業



話が聞きたらず、大学内の喫茶店にて  
再び先生を招きまして講義の続きを聞く

## ⑨事業の成果

団塊世代の地域コミュニティ参加を促すには様々な事業を行うことによってまず公民館に足を運ぶきっかけを作ること。

そして個人個人の適性を考えながら声掛けをしていくことが大事であることを再認識しました。記念誌作成事業は現在も進行中で、10月には発行予定です。

今回の記念誌作成事業において、素晴らしい人材発掘ができたことと、そしてこの経験は当該事業に関わらず、今後様々な公民館事業を企画するうえにおいて、きっと有益なものとなるでしょう。また、貴重な経験を持たれた人たちの活躍の場を設定できたことは、公民館職員にとって非常に喜ばしいことです。

掘り出し物(人材)がないか  
目を光らせて



事業はまだまだ続きます

## ⑩今後の課題

取り組み内容のところでも触れましたが、記念誌がより多くの人たちに目にしてもらうため、紙だけではなくホームページでの公開も検討しておりますが、是非実現をはかりたいと思っています。

⑪問合せ先 〒814-0104 福岡市城南区別府一丁目15番19号  
福岡市別府公民館 TEL 092-821-7489 Fax 092-821-2308  
e-mail behu59@jcom.home.ne.jp